

学校教育目標	目指す子どもの姿(中・長期的目標)	総合評価				
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども	1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(向上心) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気をつけ 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)	・無言清掃に取り組む姿、友だちへのさりげない思いやりの姿など、落ち着いて過ごす中で子どもらしい成長をしている姿が多く見られる。また、学習指導についても「子ども中心」の授業改善が進んでいる。反面挨拶については大きな課題が残る。職員が意識を共有し取り組みを強めたい。				
今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D
【みんなとつくるわたしの学び】学びの質の高まりや学習成果を実感できる学校				○		
【みんなのためにがんばって きれいにしよう】働く喜び、協力、やり抜く大切さを「みがきタイム」				○		
【走れ！ 跳べ！ 熱くなれ！】健やかでたくましい体に育つ安全で活力のある学校				○		

※評価【A:十分 B:ほぼ達成 C:不十分】該当箇所に○をしてください。

領域対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価			
				A	B	C	D
教育課程・学習指導	1 聴く・伝える	・子どもたちが興味関心ち、聴こうとする学習提示があったか。 ・話し合いの時間が確保され、友の意見に耳を傾け、自己の考えをさらに深められる機会となっていたか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えようため、具体的にわかりやすい伝え方の指導をしたか。	・前時とのズレ、事象と自分とのズレなど、ズレから生じる学習問題の提示により、子どものなぜを生み出す場面が少しずつ増えてきている。さらに1時間、さらに1単元と、地道な努力を続けていきたい。 ・伝えたい、聞きたいと自ら願って聞く姿は増えてはいるものの、もう一歩であり、必要感という点で弱さを感じる。子どもの前のめりになって学ぶその時をどうつくるのか、または見逃さないでいられるかが求められる。		○		
	2 基礎基本の確実な習得	・学習のねらいが明確とするため、わかったこと、できたことを振り返る時間が位置づけられたいたか。 ・ドリルの時間の内容が基礎的事項の定着につながったか。 ・1時間の中に、書くことを位置づけたことで、自分の考えが明確になっていたか。	・学習問題、めあて、まとめの板書カードを活用することで、板書だけではなく授業そのものにメリハリが生じ、自分の考えや振り返りを書く時間が確保できた。 ・なぜそうなるのか、根拠をじっくり考え意見交換する場を多く設けることで、自分の考えと反対の考えを比較・検討する子どもが増えてきている。 ・ドリルタイムは復習に用いられており、子どもたちにも定着している。漢字、計算の定着・向上に役立っている。		○		
	3 たくましい体づくり	・校庭や体育館で積極的に体を動かし遊ぶため、体を動かすことのよさを体感させる指導をしたか。	・全校体育で体ほぐし運動やなわとびを通して、簡単・楽しく・自分の身体と向き合う運動を紹介・実施することができた。 ・校庭と体育館に、体力アップ遊びコーナーを設け、児童が気軽に運動に親しめるようにした。 ・「1校1運動」としてなわとびを設定し、運動会などに取り入れたが、児童への意識付けがやや不十分だった。		○		
	4 心を磨く清掃	・清掃の仕方の指導をし、定着しているか。 ・無言で行うことの価値を伝えたことで、無言で集中し、責任を持ってやり遂げようとしていたか。 ・自分の気づきが生かされた清掃とするため、自分の気づきを振り返る機会が保障されていたか。	めあて→清掃→振り返りカード記入、という東小の清掃の形は定着した。清掃中の私語も少なくなり、静かに取り組んでいるところが多い。「無言清掃」という形から入っているところもあり、「気づき清掃」や「心を磨く」というところは道半ばである。		○		
生徒指導	1 響くあいさつ	・子どもたちが自分から挨拶をするように教師が率先して挨拶を投げかけたか。	率先して声かけをし、交通安全当番でも挨拶の様子を気にかけてきた。「先生や友だちに自分から挨拶ができていますか」というアンケートの項目について、「そう思う」と答えた児童は53%にとどまり、改善が必要である。			○	
	2 人間関係作り	・人のつながりを友達関係のあり方を見つめ直す日々の学級指導、道徳教育ができていたか。 ・日常から子どもたちのよさをクラス全体に広めようとしたか。	兄弟学級活動やなかよしゆうびんなど、具体的な活動を通して子どもたちの交流を深めようとしてきた。人権教育参観日として全学級授業を公開し、学年の実態に応じて、授業のねらいに迫れるよう、実践を重ねている。		○		

学校運営	地域との連携	1	地域素材の教材化による学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出かけ、人との関わりが授業づくりに結びつけたか。</li> <li>・総合など地域学習を学年に一度は位置づけたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の講師の方から昔の話をお聞きしたり、上田城に関わる歴史史跡、実際に蚕を飼っての産業の学習、伝統の常田獅子の学習などを通して、自分たちの身近なひと、ものと自分のつながりを広げている。地域のよさをあらためて知る機会が低学年の社会科地域探検や高学年の総合学習で行われた。さらに地域に出て、教材を発掘していく。</li> </ul>	○			
		2	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の名人、達人を授業に招いたりして、地域のよさ、人のすばらしさを感じ取らせたか。</li> <li>・自分の生き方について考える素地ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業でこの地域のよさを生かして努力されている方のお話をお聞きしたり、クラブ活動を通して子どもたちが自分たちの周りにいるたくさんのすばらしい力、思いにあこがれをもっている。さらに後半も地域の方をお招きしての学習を計画している。</li> </ul>	○			
		3	地域・PTAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のボランティアの方々の力が学習に生かされたか。</li> <li>・学校便り、学年便りなどを通して、保護者の学校への理解を深めようとしたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行こう週間で授業に加えて、日常の子どもたちの生活や給食、生活なども参観いただき、子どもたちの姿を評価していただいた。</li> <li>・クラブ活動においても26名の方々のボランティアで活動が充実している。</li> <li>・毎週の学年だよりや学校だよりで学校、子どもたちの様子をお伝えしてきている。</li> </ul>	○			
	研修	1	子どもが自ら動き出す授業を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開を通して、互いの授業を見合い授業改善に取り組んだか。</li> <li>・児童の発言が中心に学習が深まる授業が増えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題別グループをつくって、一人1公開授業研究を通して授業を見合い、研究会を重ねてきた。特に学習課題のあり方、板書、教材研究で討議が深まり、子どもたち自ら考え、学びを深める授業に向けて研究を進めている。</li> </ul>	○			